

わかやま母親通信

第86号 2021年2月20日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール: w_haharen@wkn.or.jp

生命を生み出す母親は
生命を育て
生命を守ることをのぞみます

第65回和歌山県母親大会 in 有田川町（金屋文化保健センター 6月20日の予定）

1月23日(土)に、和歌山県母親大会連絡会を開催しました

新型コロナの感染拡大が収まらず、11都府県に緊急事態宣言が出され、県内の感染者数も多くなっている状況下で、県母親大会の開催の判断は、非常に迷うところです。1月23日の会議では、まだ正式の実行委員会は再開せず、各郡市母連や団体での論議を踏まえることとしました。次回の県母連会議は、2月20日の予定です。

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会

森会長の「女性蔑視」発言に抗議します

2月初め、JOC臨時評議員会での森喜朗会長の「女性が多い会議は時間がかかる」「私どもの組織委の女性はみんなわきまえているが…」といった発言に、すぐさま国内外から反発の声が上がり、周りが火消しに躍起となっても日に日に抗議と辞任を求める声が大きくなっていきました。国内での男性主導の場でのちょっとした軽い冗談話のつもりでも、ことオリンピック組織委のトップによる会議の席での発言であり、IOC 理事やアスリート、大会スポンサーからも次々と批判され、ついに辞任せざるを得なくなりました。その「引責辞任」する人が後任を推薦したことで、またまた…。

ジェンダー平等度 121位（世界 153カ国中）という日本の後進性を「オウンゴール」で発信し、世界中に改めて認識させたようなものです。恥かしさを感じるとともに、日本女性として私たちは、「従順にわきまえず」、だれもがもっと自由に多様に生きられるジェンダー平等の日本に前進させるために行動していきたいものです。

11日（木・祝）県新婦人事務局からの呼びかけで、和歌山市駅前での抗議行動に手作りプラカードを持って参加しました。この日はフラワーデモが開催される日で、全国的に抗議行動が行われました。大学生やフードバンク活動の若者の参加もあり、31人の大集団でのアピール行動となり、通行する人からも、「もうやめるってね」と言った反応もありました。

女性蔑視発言をした

東京五輪・パラ組織委の

森会長は トップに

ふさわしくない!!

モーやめて〜



IOCもJOC会長も
「不適切」と断言!



それでも
森会長で
五輪やる?

2021年国際女性デー和歌山県集会を開催 10数年ぶりに？

2月9日(火)、和歌山市勤労者総合センターで、7団体を中心に開催しました。和歌山市事務局の池田光子さんが、手製の横断幕を用意してくださり正面に掲げました。

中谷弘子代表の開会挨拶、西川静代事務局の「県集会再開までの経過説明」があり、講演は、「県内女性を取り巻く状況と改善への課題」と題して、奥村のり子県議会議員にお話をしていただきました。女性が置かれている全国的な資料を示し、「女性の活躍」という言葉の下で「非正規化」と「女性の貧困」が進んでいると指摘されました。ただ、和歌山県として分析した資料が少なく、もっときちんとした検証をさせるとともに、次の「男女共同参画基本計画」にくらしの要求を反映させることが大切だと話されました。

その後、参加団体からの発言がありました。有田から「むくげの会」の方の参加があり、「慰安婦問題」について発言していただきました。また、「森会長の辞任要求をしよう」との発言があり、後日、事務局から要求書を提出しました。



東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 様

森会長の「女性蔑視」発言による引責辞任に伴って、ジェンダー感覚をもって発信できる新会長の選出を願うとともに、再発防止に向けた貴委員会内の総括・研修・具体的改革を望みます

新型コロナ禍の中で、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた膨大な準備に、日々取り組まれていることに敬意を表します。

さて、2月3日の森喜朗会長の「女性蔑視」発言は、国内外の人々から厳しい批判を受けました。ジェンダー平等後進国の日本の実態を、まさに「オウンゴール」で発進したのも同然でした。それは、森会長一人だけの事ではなく、その後の貴委員会及びJOCなど関連団体の役員の方々の対応も「同罪」の非難は免れません。事の本質を理解せず、「よくあるちょっとした失言」「謝罪しなかったこと」と右往左往する様子が報道を通してありありと伝わりました。こんな旧態依然とした組織が、「男女平等」「多様性と調和」といった理念を掲げる五輪・パラリンピックを準備してきたのかとの落胆を禁じえませんでした。

森氏自身は、退任の挨拶からも、問題の本質を理解していないままのように見受けられましたが、後を背負う皆様方は、何が根本の問題で何を批判されたのかを十分把握した上で、次に進むだろうことを期待し、言動を注視しています。

そして、前へ進むにあたって、次の点を要望します。

まず、新会長の人選は、ジェンダー感覚をもって日本の顔となれる人を、透明度の高い選出方法で選出していただきたいものです。

同時に、一連の出来事の総括、世界レベルに対応できるジェンダー意識への研修、男尊女卑の旧態依然とした組織のしくみの改革、世界に発信できる具体的施策の実行を希望いたします。

世界の皆さんが、「よかったね」と思ってくれる大会の成功を祈っています。

2021年2月12日

2021年3.8国際女性デー和歌山県集会実行委員会

第57回みなべ町国際女性デー

1/17「新型コロナについて学習しよう」

新年を迎え、第3波が始まる中でしたが、1/17に、高田由一県議会議員を迎えて、感染対策をして開催しました。女性21名、男性1名の参加でした。事務局としては、活動の跡を残すことができ、ほっとしています。

(みなべ町母親大会実行委 R.T.)

3.8 国際女性デー 和歌山市集会

治安維持法下での和歌山の女性たちのたたかい～平和紙芝居リレーとともに～

* 日時:2021年3月6日(土)13:30～

* 場所:和歌山市教育会館

* 講師:鶴田至弘氏(国陪同盟県会長)

ふたたび戦争と暗黒政治を許さぬために、平和・民主主義・人権・ジェンダー平等の21世紀をめざし、学び…。

各地で工夫して、3.8 国際女性デーの取り組みを計画しましょう